

製品名: ハプトグロビンウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11899**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用**希釈倍率** IHC 1:50-1:200, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000**分子量****抗原情報**

遺伝子名	HP
別名	Haptoglobin (Zonulin) [Cleaved into: Haptoglobin alpha chain; Haptoglobin beta chain]
遺伝子 ID	3240.0
SwissProt ID	P00738
免疫原	アミノ酸配列範囲: 300~360 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

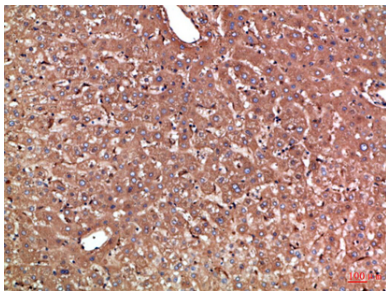
背景

ハプトグロビン(HP) ホモサピエンス この遺伝子はプレプロタンパク質をコードしており、これが処理されてアルファ鎖とベータ鎖の両方が生成され、その後、テトラマーとして結合してハプトグロビンが生成されます。ハプトグロビンは、遊離血漿ヘモグロビンに

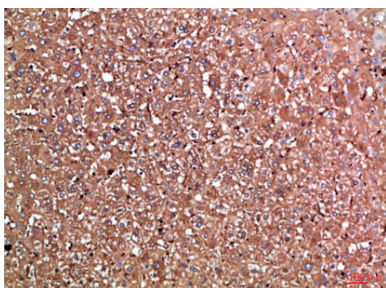
結合して分解酵素がヘモグロビンにアクセスできるようにするとともに、腎臓を通じた鉄の損失を防ぎ、ヘモグロビンによる腎臓の損傷を防ぎます。この遺伝子および/またはその調節領域の変異は、無ハプトグロビン血症または低ハプトグロビン血症を引き起こします。この遺伝子は、糖尿病性腎症、1型糖尿病における冠動脈疾患の発症、クローン病、炎症性疾患行動、原発性硬化性胆管炎、特発性パーキンソン病に対する感受性、および熱帯熱マラリアの発症率の低下にも関連付けられています。コードされているタンパク質は、細菌に対して抗菌活性も示します。同様の重複遺伝子が隣接しています。注意：セリンプロテアーゼと相同性がありますが、必須の触媒残基をすべて失っており、酵素活性はありません。機能：ハプトグロビンは遊離血漿ヘモグロビンと結合し、腎臓からの鉄の損失を防ぎ、ヘモグロビンによる腎臓の損傷を防ぐとともに、ヘモグロビンが分解酵素に利用できるようにします。オンライン情報：ハプトグロビンエントリ,オンライン情報：シンガポールヒト変異・多型データベース,多型：ヒト集団には、83残基の $\alpha 1$ と142残基の $\alpha 2$ という2つの主要な対立遺伝子型があります。これらの対立遺伝子は、3つの主要な表現型 HP*1F/HP*1S および HP*2FS を決定します。HP*1の2つの主要な対立遺伝子は、HP*1F (高速)とHP*1S (低速)と呼ばれます。類似性：ペプチダーゼS1ファミリーに属します。類似性：ペプチダーゼS1ドメインを1つ含みます。類似性：Sushi (CCP/SCR)ドメインを1つ含みます。類似性：Sushi (CCP/SCR)ドメインを2つ含みます。サブユニット：2つの α 鎖と2つの β 鎖からなる四量体です。組織特異性：肝臓で発現し、血漿中に分泌されます。組織特異性：成人の肝臓では、HPR mRNAの量は検出下限値であるため、その発現量はHP1F遺伝子の1000倍未満です。胎児肝臓ではHPR mRNAは検出されません。肝細胞癌G2および白血病molt-4細胞株で発現しています。、

研究分野

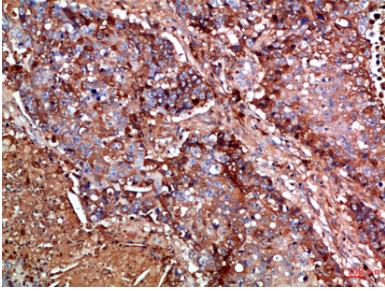
画像データ



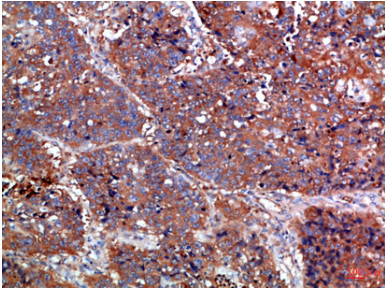
パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析、抗体は1:100に希釈された



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析、抗体は1:100に希釈された



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された